

認 定 書

国住指第 2533 号
令和元年 12 月 10 日

北越メタル株式会社
代表取締役社長 棚橋 章 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 37 条第二号の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
MSRB-0118
2. 認定をした構造方法等の名称
開先付き異形棒鋼 WSD390
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

指 定 書

国住指第 2533-2 号
令和元年 12 月 10 日

北越メタル株式会社
代表取締役社長 棚橋 章 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の建築基準法第 37 条第二号の国土交通大臣の認定を受けた高強度鉄筋に係る許容応力度等の基準強度について、平成 12 年建設省告示第 2464 号第一第二号、第二第二号、第三第二号及び第四第二号の規定に基づき、下記の通り数値を指定する。

記

1. 認定番号
MSRB-0118
2. 認定をした構造方法等の名称
開先付き異形棒鋼 WSD390

3. 指定する数値

許容応力度の基準強度	390 N/mm ²
溶接部の許容応力度の基準強度	390 N/mm ²
材料強度の基準強度	390 N/mm ² 上記の数値の 1.1 倍以下までの数値
溶接部の材料強度の基準強度	390 N/mm ² 上記の数値の 1.1 倍以下までの数値

(注意) この指定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造方法等の名称

開先付き異形棒鋼 WSD390

2. 建築材料の適用範囲

本建築材料は、(1) S C杭、鋼管杭および外殻鋼管場所打ちコンクリート杭の杭頭鋼管、(2) 鉄骨造埋込み柱脚の鋼材、ダイアフラムおよびベースプレート、(3) SRC造の鉄骨仕口のダイアフラムおよびベースプレートに、部分溶込み溶接する異形棒鋼である。

本建築材料は、杭とフーチングの杭頭接合部ならびに鉄骨造柱、SRC造柱がRC造梁と取り合う接合部において、引張力および圧縮力を負担する異形棒鋼に適用する。

3. 建築材料の形状及び寸法・構成

3. 1 姿図 (形状・構成)

開先付き異形棒鋼の姿図は、図1による。鋼材との溶接性を考慮した開先を有するものである。

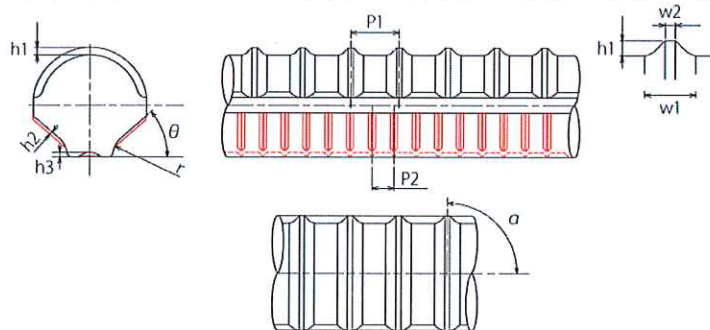


図1 開先付き異形棒鋼の姿図

3. 2 寸法 (形状・寸法)

開先付き異形棒鋼の形状、寸法及び単位質量は、表1による。

表1 寸法、質量、節及び開先凹凸部の許容限界

呼び名	公称直径 (d) mm	公称断面積 (s) cm ²	単位質量 kg/m	節の平均間隔の最大値 (P1) mm	節の高さ (h1) mm		節の幅 (w1) mm	節の頂部の幅 (w2) mm		節と軸線との角度 (α) 度	J開先の角度 (θ) 度	J開先のルートの半径 (r) mm	開先凸部の平均間隔の最大値* (P2) mm	開先凸部の高さ* (h2) mm	開先凹部の深さ* (h3) mm	単位質量の許容差 %
					最小値	最大値		最小値	最大値							
WD25J	25.4	5.067	3.98	17.8	1.3	2.6	8±2	1.8	4.8	45 以上	42.5 ±2.5	9±2	12.0	0.7	0.6	±5
WD32J	31.8	7.942	6.23	22.3	1.6	3.2	9±2	1.8	4.8				±0.2	以上		
WD35J	34.9	9.566	7.51	24.4	1.7	3.4	10±2	2.0	5.0				13.0	0.8 ±0.2	0.9 以上	
WD38J	38.1	11.40	8.95	26.7	1.9	3.8	10±2	2.0	5.0							

備考1. 公称断面積(s)、単位質量の算出方法は、次による。

公称断面積 (cm²) = 0.7854 × d² / 100 : 有効数字4けたに丸める。

単位質量(kg/m) = 0.785 × s : 有効数字3けたに丸める。

備考2. 公称周長は、申請者が設計マニュアルに定めることとする。

備考3. *印は、告示第1446号第四、鉄筋の技術的基準に定められていない項目である。

備考4. 節と軸線との角度は、節と軸線により形成される角度の内小さい方の値を計測することとする。

(別添)

4. 建築材料の品質基準

4. 1 種類

開先付き異形棒鋼の記号は、表2による。

表2 種類の記号

区分	種類の記号
開先付き異形棒鋼	WSD390

備考. WSD390は、種類を区別する表示として圧延マークによる表示（突起の数2個）を行う。
また、呼び名を区別する表示としても圧延マークによる表示（25, 32, 35, 38）を行う。
但し、圧延マークで文字などを浮き彫りにする場合には、その部分の筋は欠いてもよい。

4. 2 化学成分

開先付き異形棒鋼の溶鋼分析値は、表3による。

表3 化学成分

種類の記号	化学成分 (%)					
	C	Si	Mn	P	S	C+Mn/6
WSD390	0.26以下	0.45以下	1.20以下	0.040以下	0.040以下	0.44以下

備考. 化学成分は、取鍋分析値とする。

4. 3 機械的性質

開先付き異形棒鋼の降伏点又は0.2%耐力、引張強さ、降伏比、伸び及び曲げ性は、表4による。なお、曲げ性の場合はその外側に亀裂を生じてはならない。

表4 機械的性質

種類の記号	降伏点 又は0.2%耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	降伏比 (%)	伸び		曲げ性	
				試験片 ^{備考1}	(%)	曲げ角度	内側半径 ^{備考2}
WSD390	390~510	560以上	80以下	14A号	17以上 ^{備考3}	180°	2.5d

備考1. ここに示す14A号試験片は、JIS Z 2241:2011を用いる。

備考2. 曲げ半径のdは、公称直径とする。

備考3. WD32Jを越えるものについては、4%を限度として、呼び名が3増すごとに、上表の伸び値から2%を減じる。
したがって、WD35Jは15%以上及びWD38Jは13%以上の伸びとなる。

4. 4 外観

外観には、構造耐力上の有害な欠け、割れ、鏽、付着物等があつてはならない。